

2008年 大学評価担当者集会報告

2008年9月5日に九州大学西新プラザにおいて、昨年に引き続きまして大学評価担当者集会が開催されました。国公立26大学から68名の教職員の方々が参加されました。今年の集会は「大学評価・現場の課題」をテーマに、各大学が評価業務の現場で抱えている課題を共有し、その解決の方途を探ることに焦点を当てました。

集会は、九州大学大学評価情報室の落合室長の挨拶から始まり、引き続いて各大学の自己紹介及び苦勞している点を紹介していただきました。認証評価を一段落させた大学からは、実際の評価作業において苦勞した点（学内に散在しているデータの収集や部局との連携など）が紹介された他、いくつかの国立大学からは法人評価と中期目標・中期計画の連動の課題などが挙げられました。各大学の紹介の後、現場の課題に関する事例報告として、以下の方々による報告が行われました。

- ・ 瀧田敏行（茨城大学）「茨城大学における情報の収集・分析に関する現状と課題」
- ・ 森田光男（関西学院大学）「認証評価を契機としたPDCAサイクル強化への取り組み」
- ・ 小林裕美（大阪大学）「評価結果を大学運営への反映事例－大阪大学における達成状況評価書活用例－」
- ・ 難波輝吉（名城大学）「大学評価・現場の課題－名城大学の取り組みから－」
- ・ 佐藤仁（九州大学）「データの二次利用の可能性：九州大学ファクトブック（Q-Fact）の試み」
- ・ 森雅生（九州大学）「データの二次利用の可能性：「学校基本調査」提出データの「電子化プロジェクト」」



各事例報告の後は、それぞれの報告に対して質疑応答を行う形で、議論が進められました。議論の焦点としては、特に法人評価に向けての学内の体制、中期目標・中期計画と法人評価の連動、評価活動と関連したデータベースの構築といった点が挙げられました。

質疑応答後は、九州大学大学評価情報室の高田准教授から会に先だって行われた事前アンケートの結果が報告されました。事前アンケートでは、「情報の収集・分析」、「評価の実施体制」、「評価結果の大学運営への反映」、「その他」の4項目に関して、「評価業務の実践に当たって苦労している具体的な課題等」を自由記述で回答していただきました。全体的な傾向として、評価結果の大学運営への反映という取り組みが、他の項目に比べて進んでいない状況が確認されました。「情報の収集・分析」に関しては、データ収集の非効率性、データそのものの正確性、データ管理の難しさといった課題が挙げられました。「評価の実施体制」については、評価室という形での組織化が進んでいる一方で、業務負担が集中していること、教員と職員の連携が取れていないことなどが課題として挙げられました。三つめの「評価結果の大学運営への反映」に関しては、学長のリーダーシップの下、改善に向けた取り組みが見られますが、具体的な活用に関しては未定であるところが多く、部局との温度差を感じるといった意見などがありました。

会の最後は、九州大学大学評価情報室の関口副室長から挨拶がありました。関口副室長からは、大学評価担当者の大学間での連携の重要性が示され、今後の具体的な連携の在り方としてコンソーシアムを視野に入れた体制の整備が提案されました。そして最後に、来年度も大学評価担当者集会を開催する方針を参加者の方々と確認し、会は終了いたしました。

